



住所: 東京都中央区日本橋大伝馬町13-8  
メディカルプライム日本橋小伝馬町3階  
TEL: 03-3639-3110 FAX: 03-3639-3112

## 2021年10月 診療カレンダー

- 1. 内科・生活習慣病
- 2. 心臓病・糖尿病
- 3. 睡眠時無呼吸症
- 4. 土曜日診療
- 5. 発熱外来・PCR検査

インフルエンザ  
ワクチン開始します

予約・お問い合わせ  
先はこちら  
050-3181-2565



ホームページ  
院長ブログ公開中

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

休診日 午後休診 18時最終受付

一般外来	9:30-12:00	16:00-19:00
発熱外来	12:00-13:00	15:30-16:00

### 「今月の言葉」

何でもないことは流行に従う。  
重大なことは道徳に従う。  
芸術のことは自分に従う。  
小津安二郎/映画監督



## ショパン国際ピアノコンクール2021

東京2020大会も閉幕し、季節は秋です。最近ではコロナの感染者数も減少がみられ、私としても少しホッとしております。以前ブログにも書きましたが、いよいよ6年ぶりのショパン国際ピアノコンクールがポーランドの首都ワルシャワで開催されます。

これに先立ち7月には予備予選が行われました。151人の参加者のうち予備予選を通過した78名と予備予選免除の9名を加えた総勢87名で10月3日から1次予選が始まります。日本からは14名が1次予選に臨むことになります。前回と同様にコンクールの演奏は世界中に向けてライブ配信される予定で、大変楽しみにしています。

私は残念ながらピアノは「ねこふんじやった」くらいしか弾けないのですが、娘が習っていることもあり、ピアノにはとても興味があり、ピアノ曲を聴くのも大好きです。7月の予備予選の配信も自宅で楽しく見ましたが、当然のことながら全然弾けていなかったりミスが多くみられるような演奏者は皆無で、実力差はほとんどないように感じました。私はヴァイオリンを弾くこともあり、弦楽器部門のコンクールのにも興味がありますが、ヴァイオリンのコンクールのほうが各奏者の実力差がはっきりと分かる気がします。

ピアノコンクールでは、あらかじめ用意されている同じ楽器を使用しますから楽器による差はほとんどありません。ピアノはヴァイオリンなどの楽器と違い、打楽器的な要素が多いため「音色のちがいが」というのも出しにくいように思います。さらに当然のことながらピアニストと呼ばれる演奏家たちは、アマチュアと比べてほとんどミスタッチがありません。私の印象では素人は、かかれた楽譜のうち7割くらい正しく弾いていれば上出来ですが、音楽の道に進む人は95%くらい正確に弾くべく練習を重ねていて、さらにコンクールでは98-99%くらい正確に弾いています(あくまで勝手な印象ですが)。そうなるコンクールのなかで際立った違いを出すことは至難の業であるように思えます。実際、予備予選で素晴らしい演奏をし、次に進むのかなと注目していた出場者でも、結果をみると通過できていなかったり、またその逆もあったり、つくづくピアノの評価というのは難しいものだと思い知りました。

著名なピアニストで大きなコンクールで上位ないし優勝したような人でも、別のコンクールでは予選落ちということもざらにあるようです。もちろんその時のコンディションなどもあると思いますが、完璧レベルの戦いとなるとほとんど差もありません。ひょっとするとコンクールには審査員のお好みや「運」といったものも大きく作用してくるのかもしれない。

ショパンコンクールというと、日本では世界一のピアノのコンクールというイメージがあり、ピアニスト世界一を決めるという印象があります。しかしこのコンクールで演奏するのはすべてショパンの作品ですから、ピアニスト世界一というよりは世界一のショパン弾きを選ぶという意味合いが強いかもしれません。となると、その演奏者がショパンには相応しいかということも大きなポイントだと思えます。

前回は日本人の男性ピアニストはあまり見かけませんでしたが、今回は多くの男性ピアニストが残っています。ここ最近日本人の男性ピアニストの健闘が目立っており、ショパンコンクールと並んで三大ピアノコンクールと言われているチャイコフスキーコンクールでは2019年に藤田真央さんが2位、今年のエリザベート王妃コンクールでは務川慧悟さんが3位、阪田知樹さんが4位でした。先日終わったばかりのリーズ・国際ピアノコンクールでは小林海都さんが2位と、素晴らしい快挙に日本のピアノ界は大いに沸きました。

私は娘のピアノをみていて思うのですが、ピアノという楽器は男性の方が圧倒的に向いているように思うのです。手が大きいことは多くの音を押さえるのに適していますし、体が大きいことはオーケストラをバックにチャイコフスキーやラフマニノフなどのスケールの大きな協奏曲を大音量で弾くには有利です。2019年のチャイコフスキーコンクールではファイナリストに残った7人全員が男性で、今年のエリザベート王妃コンクールではファイナリスト6人全員が男性、リーズ・国際ピアノコンクールでもファイナリスト5名が全男性でした。

その点からみると、ショパンの作品はそこまで大きな音量は必要ではなく、楽譜上でも大きな手が必要な作品は少ないので、女性ピアニストだから絶対的な不利というわけではなさそうです。

コンクールでよく思うのは、芸術を採点するということの難しさです。陸上競技の100M走では0.01秒でも速ければ勝ちですが、芸術はそのような尺度では測れません。前回のショパンコンクールで優勝したチョ・ソジン氏は1次予選から3次予選、本選とほとんどの審査員から常に最高評価を与えられてきましたが、ある審査員1名が1次予選から3次予選、本選とすべてに最低点での評価をしていました。ここまであらゆる評価はたまたまということではなく、完全にその人のことが「嫌い」ということになるのでしょうか。「好き」か「嫌い」かで判断していいのかということ、もちろんそうあってはならないことですが、芸術というものは結局は好きか嫌いかということになりますから、必ずしもダメとはいえない部分もあるのかもしれません。

しかし、「好き」「嫌い」を基準に判断していくと「審査員をされている先生に気に入られるために、門下生になる」いわば「コネ」が横行してしまうこともあるようです。実際にコンクールの審査員の先生の門下生ばかりが予選を通過し、上位入賞しているようなことが見受けられ、公平性が問われるところではあります。

コンクールに公平な評価基準というものには存在しませんし、コンクール自体に絶対的な価値を置く必要はないと思います。コンクールの結果がそのピアニストの運命を左右することがあるとしても、自分の信じた音楽を大事に奏で続けてほしいと切に思います。最近ではYouTubeをやSNSが発達して、自分の音楽を多くの人に届ける方法も沢山でてきました。コンクールの結果だけでやっていけるような時代ではないからこそ、その後の音楽活動が重要になってくると思います。

そうはいつても、世界中の音楽ファンが待ちわびていた6年ぶりのショパンコンクールです。国歌斉唱、国旗掲揚はありませんが、世界中のピアニストがしのぎを削る闘いの場です。日本からも本選を目指して14人がワルシャワ入ります。ファイナルをめざして大いに盛り上がることを期待しています。皆さまもぜひライブ配信を楽しんでください。ライブ配信でチャットを利用し、演奏者へ応援メッセージも送ることができますよ！